

第9回

青梅市総合長期計画審議会

会議録（概要版）

日 時 令和4年8月25日（木）午後2時
場 所 青梅市役所201・202会議室

第9回青梅市総合長期計画審議会議事日程

日 時 令和4年8月25日(木) 午後2時00分～4時05分

場 所 青梅市役所201・202会議室

- 1 市長あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) パブリックコメント提出意見について
 - (2) 小学生オンライン交流会の実施結果について
- 4 協議事項
 - (1) 第7次青梅市総合長期計画基本構想・基本計画素案について
- 5 その他
 - (1) 次回の開催等について
 - (2) その他
- 6 閉会

.....

出席者	委員	中村洋介	委員	望月友美子	委員
		和田孝	委員	栗原久美子	委員
		伊藤武夫	委員	沼倉智弓	委員
		松井勉	委員	儘田菜つ美	委員
		宇津木憲一郎	委員	宮口泉	委員
		三竹直哉	委員	杉田真衣	委員
		鬼塚睦子	委員	中島由美	委員

青梅市長 浜中啓一

副市長 小山高義

教育長 橋本雅幸

事務局 企画部長 伊藤英彦 企画政策課長 野村正明

午後3時開会

.....

1 市長あいさつ

【事務局】

開会に先立ち、浜中市長からごあいさつを申し上げます。

【市長】

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、第9回青梅市総合長期計画審議会にご出席いただき大変ありがとうございます。7月に開催いたしました前回の審議会の頃から、新型コロナウイルスの第7波が猛威を振るい始めていました。今週に入っても本市の感染者数は、毎日200人前後の高い水準が続いています。こうした中、医療現場の最前線である市立総合病院では職員等の感染があり、マンパワーの不足が深刻になりつつありますが、発熱外来の増設やコロナ病床を増やすなど、市民の生命を最優先として対応を図っているところであります。新型コロナウイルスの収束が見えない中で、昨日幹部職員には、単に感染の収束を待つという考えからコロナウイルスとともに如何に市政運営を行っていくかという点に基づき、新たな行政サービスの構築に向けて発想の転換を行うよう指示をしたところでございます。

今回提示する第7次青梅市総合長期計画の素案には、皆様からのご意見を踏まえ、バックキャストの考え方を取り入れるなど新しい試みを行っております。残りわずかな開催となりますが、皆様方からのご意見を取り入れ計画案を磨いていきたいと思っておりますので、本日もよろしくお願い申し上げます。

.....

2 会長あいさつ

【事務局】

それでは、会長からごあいさつをいただき、その後の進行につきまして、よろしくお願いいたします。

【会長】

皆様こんにちは。只今から第9回青梅市総合長期計画審議会を始めさせていただきます。前回は1回目で今回が2回目の素案になりますが、この内容については次回が原案の検討、そしてもう1回が最終的に諮問案を出すという流れになっております。今日が実質的に意見を出していただける、最終ではないですが、機会になるのではないかと考えています。

前回の素案から今回について事務局の方で内容を盛り込んでいただいて、整理されたなという感があります。それらも踏まえながら今日は色々な意見を出していただければと思っております。

また、今回の会議にあたってパブリックコメントに目を通す時間があつたのですが、青梅市民の皆さんが青梅に対する思いが強く、色々なことを願っている、提案したいということが伝わってきました。併せて小学生も自分たちのまちのために一生懸命提案していこうという思いも読み取ることができました。私たちの仕事もそれだけ重要な責任のあることだと改めて考え

させられました。

ぜひ今日も忌憚のないご意見を出していただければと思っております。

3 報告事項

(1) パブリックコメント提出意見について

【会長】

パブリックコメント提出意見について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料1をご覧ください。こちらにつきましては、前回の審議会におきましても途中経過として報告させていただきましたが、ここで全件の集計ができましたので改めて報告させていただきます。

4月1日から15日までの間におきまして、66人の方々から199件のご意見が提出されました。提出の方法としましては、新たなツールとしてLINEを取り入れましたが、66人のうち約1/3の方にご利用していただけたこととなっております。これらのご意見の区分につきましては、全体的な基本構想にかかるものが7件、健康・医療・福祉分野が7件、子育て・若者・教育分野が32件、自然・環境・エネルギーが22件、都市基盤・防災・安全が48件、伝統・文化・生涯学習が16件、地域経済が17件、コミュニティ・共創が19件、行政経営・行政サービスが15件、共通する視点が1件、市政全般にかかるものが15件でございました。これらのご意見につきまして、市としての考えを事務局で取りまとめている最中ですので、まとめ次第、今後改めて詳細と併せて報告させていただきたいと存じますので、ご了承いただければと存じます。

【会長】

事務局からの説明に対し、ご意見、ご質問はありますか。

(意見・質問なし)

(2) 小学生オンライン交流会の実施結果について

【会長】

小学生オンライン交流会の実施結果について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料2をご覧ください。7月25日に市内の小学校16校をオンラインで結びまして、第7次総合長期計画の最終年度となる「2032年未来の青梅」をテーマに他校との意見交換・交流を通じて、市政運営に対し、興味・関心をもってもらうとともに、子どもたちの声を市政運営に反映させることを目的に開催いたしました。当日は各校から計64名の児童と、市からは市長、副市長、教育長が出席しました。

テーマといたしまして、第7次総合長期計画の8つフレームを児童向けにかみ砕いたかたち

で、それぞれ区分しまして意見を出し合っていました。

(1) 健康づくり、病院、高齢者、障害者のグループからは、「挨拶で幸せに」「困っている人を助けられる」「外遊びの遊具」「体育館へのクーラー設置」「インターネットの活用」

(2) 子ども、子育て、学校のグループからは「虐待への対策」や「防犯意識を持つこと」。また、様々な人が「こんな青梅市、いいんじゃない」と言って、いろんな人が青梅市に来て、青梅市をととても活気あるまちにするというご意見。

(3) 自然、リサイクル、地球温暖化のグループからは「自然を大切に」「きれいなまちに」「木を植えたり、給食の食べ残しを減らす」「空き家を取り壊して他の使い方」「森林の管理」。

(4) 道路、公園、交通、街並み、防災、防犯のグループからは「誰もが安心安全に事故なく平和で過ごせるまち」「緑豊かな自然あふれるまち」「平等に生活してほしい」「地球温暖化を止めたい」「登下校のボランティアを増やす」「リノベーションをして閉まっているお店を活用」。

(5) 伝統、歴史、文化、スポーツ、図書館のグループからは「SNSで地域の有名なところや青梅にしかない伝統文化などを広める」「スポーツ体験ができる場所をつくる」「その際の外国人などとの関わり」。

(6) 商業、工業、農業、林業、観光、仕事のグループからは「子どもが集まり友達との仲が深まる商業施設」「青梅市の木を使ったものづくりの体験や遊具のある公園」「観光客で賑わうまち、来て良かったと思えるまちを目指して、自分たちが伝統文化を知る」「今ある商店街や伝統的なものを大切にしていきたい」。

(7) ボランティア活動、平和、人権、男女平等、外国人のグループからは「全ての人が差別されることなく、自由な選択ができるまちにしたい」「中学校や高校で自由に制服を選べるようにする」「女性が自由に働けるようにしたり、男女仲良く偏見のない青梅にしていきたい」「お互いの良いところを知るために、広報紙などで情報を発信」。

(8) 市役所、デジタル化、市の施設のグループからは「自然を守りながら遊び場やホール、橋をつくって、暮らしを豊かにする」「マイナンバーカードも含めデジタル化を進めて生活を豊かにする」「選挙ポイントをつくるなどして投票率を上げる」「学校のプログラミングの授業を充実させる」。全体をとおしてこれらのご意見をいただきました。

なお、昨年度実施しました中学生のオンライン生徒会交流会につきましては、今年度も12月に開催の予定で、教育委員会と準備をさせていただいております。

【会長】

事務局より説明がありましたが、ご意見、ご質問がありましたらよろしく申し上げます。

【副会長】

すべての小学校参加は画期的だと思います。写真やグループワークの結果などは残していますか。

【事務局】

当日のオンラインでの動画は保存しています。今後、市議会や教育委員会などにも説明して

いきたいと考えています。

【副会長】

プロセスの可視化や長計そのものがプロモーションとなると思いますので、スライドショーや動画など素材を活用していただきたいと思います。

【事務局】

第7次総合長期計画を策定していく中で参画していただいた、審議会皆様のお名前やオンライン交流会に参加していただいた子どもたちの名前を冊子の最後に載せたいと考えています。この策定プロセスに参加していただいた足跡を残していきたいと考えています。

【会長】

計画の中にも小中学生がオンライン・インターネットを活用するという内容もありますが、これだけの小学校がオンラインで行ったということについて、進行上の問題はなかったですか。また会のやりとりはスムーズでしたか。

【事務局】

子どもたちはスムーズでした。パソコンが近くなるとハウリングするなど機械上の課題はありありましたが、司会進行や市長との対話など非常にスムーズにできていたと捉えています。

4 協議事項

(1) 第7次青梅市総合長期計画基本構想・基本計画素案について

【会長】

それでは協議事項に入ります。第7次青梅市総合長期計画基本構想・基本計画素案について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料3に基づき説明させていただきます。前回の本審議会において全体的なイメージとして説明させていただいたところですが、今回改めまして本市が10年後に目指すあるべき姿をお示しし、そのためにどのような施策を展開していくかについて、バックキャスト方式として、審議会委員の皆様からのご意見をはじめ、全庁的な各課調査、庁内ワーキンググループによる検討結果、市民意見等を踏まえ取りまとめたものでございます。なお、本日お手元に別途資料配付させていただいております、第8回青梅市総合長期計画審議会委員意見への対応資料は、前回皆様方からいただきましたご指摘、ご意見について、当日の議事録を事務局で改めて確認させていただき、その対応につきまして対応案としてお示しさせていただいているものになります。

資料3の5枚目から6枚目にかけて、目次欄をご覧ください。全体的な構成といたしまして、「1 総合長期計画とは」から「時代潮流」「青梅市の特徴」、アンケート調査等に基づき「市民の評価と期待」「まちづくりの背景と課題の整理」の記述をいたします。次に私たちが目指す青梅市として基本構想、「目指すまちの姿」「まちづくりの基本方向」をお示しいたします。

この下、「さあ、今からはじめよう」としまして、前期基本計画の施策体系から8つの分野ごとの基本計画をそれぞれ整理し、バックカスティング方式として10年後に目指すあるべき姿に対して、取り組んでいく施策を示してまいります。

なお、直近の令和3年度決算の数値が出ましたことと、今後の大きな建設事業などの経費を可能な限り採用していくため、現時点におきまして財源見通しにつきましては、記載されておりませんのでご了承いただきたいと存じます。また、各ページ現時点におきましてまだまだ空いているスペースがありますが、今後写真やイラスト、図などを適宜挿入していく予定であります。また、LINEで青梅市にお友達登録をしていただいている方に、第7次青梅市総合長期計画に掲載する写真データを募集しています。今までアンケートや様々なワークショップ等におきまして、市民の方に参画していただきましたけれども、こういった画像を提供していただくことでも市民の方にご参加いただきたいと考えているところでございます。

26ページをご覧ください。基本計画の見方といたしまして、それぞれの項目がどのような配置で、どのように表示されていくのかを冒頭で表してございます。一例を申し上げます。

27ページをご覧ください。「1 健康・医療・福祉」の分野におきまして、10年後に目指す姿をお示しし、その下にそのためにどのような施策を展開していくか記載しています。28ページをご覧ください。ここからは各施策ごと細分化したものを記載しています。ここでは「1-1 生涯にわたる健康づくりの推進」として、この施策が目指す姿を示して、その下に現状と課題、右側に関連する各種データ等を表示しています。29ページをご覧ください。この施策の方向性を表記しまして、さらに共通する視点としてのデジタル化・脱炭素・多様性についての記述と関連する個別計画を表示しております。

本日の審議会では、27ページの「1 健康・医療・福祉」から「8 行政経営・行政サービス」127ページまでをメインに、また、全体をとおしてお気づきの点等さらなるご意見をいただきたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

説明は以上です。

【会長】

ありがとうございました。確認ですが、今回は左綴じの資料になっていますが、見開きで1つの項目を構成するという点で間違いはないですか。

【事務局】

追記等でページ番号はズレますが、最終的にはこの構成とする予定です。

【会長】

ありがとうございます。それではこれから協議に入りますが、今回の進行としては、全委員の方から、項目にこだわらずにお考えになっていることを1回ずつ発言いただきたいと思えます。2回目については希望される方で結構だと思いますが、補足等がある場合に発言いただくこととなりますので、まずは項目にこだわらず発言いただければと思います。

【委員】

49 ページ「2-5 多様な主体による学校運営の推進」について、まさに今、娘の小学校でコミュニティスクールを行っています。7月に第1回の顔合わせがありましたが、現場では何をしたらいいか分かっていないというのが率直な感想です。計画書には「教員の負担軽減と職場環境の改善を図る」とありますが、コミュニティスクールをすることで逆に教員の負担になっているという意見もありました。やる気のある人もいますが、義務的に参加している人もおり温度差があります。変えていくには、やる気のある保護者を募ったほうがよいのではと思いました。

【委員】

34、35 ページ「1-4 高齢者福祉の充実」について、今後高齢者が増えていく中で一番問題になってくるのが介護だと思います。国の介護制度は現状に即していないという気がします。特に人材不足といわれていて、青梅市は介護施設も多いが高齢者も多く、飽和状態になると思います。施策の方向性には「多様な人材の確保や介護現場における処遇改善」とありますが、以前から言われており、現時点でクリアできていないと間に合わないと危惧しています。チラシやホームページの募集など悠長なことをしているのでは間に合わない気がします。ハローワークと連携して休眠している介護士の再雇用や介護だけの派遣システムの構築など早急に進めるべきだと思います。また、資金難で機材を導入できない施設などに、市から機材レンタルをするシステムを5年間で構築するなどあってもいいのではと思います。最終的には人材派遣システムや機材レンタルシステムを青梅市独自の介護システムとして構築していくほうが建設的だと思います。

【委員】

パブリックコメントを見ると、基本理念の「あそぼうよ」の意味について質問や否定的な意見もあり、皆のイメージがバラバラなのかなと思いました。文化条例をつくっていく中で「あそぶ」を深める会や話し合いがあるいいと思います。また、文化のイメージも芸術や生活など色々な考え方がありますが、文化はたくさんの人が何かを一緒にするといことが根本にあると思います。85ページにある「文化条例を検討する」が、もう一歩進んだ表現になることを希望しています。

市民協働、公園管理、教育、自然環境に関わってくることについて、公園の管理面で考えると火が使えないなど、禁止することばかりになってしまう。子どもの最善の利益を考えると、教育の際など目的に応じて柔軟に対応できるようにしてほしいと思います。自然体験ができるのは青梅市の特徴だと思うので、公園の利活用という部分も含め話し合いの場を設けてもらいたいと思います。

【委員】

「6 地域経済」について、「OmeBlue（青梅ブルー）を活用した地域プロモーションを通じ」とありますが、もう少し明るいブルーがいいと思います。

青梅市には観光地たくさんありますが、まず御岳山に登らせる、一極集中させてから、下に

降りてくるのがいいと思います。ただ御岳山のアクセスが悪いので車で登れるようにすると市内の他の観光地を見ていただけると思います。

地場産業については日本酒などありますが、全国にもっと売り込まないといけない。また、半導体関係や微細ガラス管など特異な商品もあり、こういったものを売り込むべき。税金にも直結してくるので、そういった意味でも観光と地場産業を一元管理して情報発信するという考えを持っていただきたい。

観光含め地場食材や特産品を市役所に展示して、市民や市外からの来訪者にアピールする施策もあっていいかなと思います。

【委員】

「5-1 青梅に伝わる歴史・文化の継承・活用」の施策の方向性に「博物館・記念館の整備・活用」とありますが、学校教育などでも学芸員さんを活用してみてもどうかと思います。せっかくある施設なので、市民が見学に来るように市からも働きかけていただき、また、学校でも活用していただきたい。

地域における防災体制の強化について、要配慮者の名簿がありますが、全部の家を訪問して様子を聞くことができていない状況です。徹底してやらないと大規模災害のときに大変なことになると思います。市の防災課を中心に、確実に実施できるような人的配置含め考えていただきたいと思います。

自治会との連携、協働について、市と連携基本協定を結んでいますが、現実的には自治会が厳しい状態です。解散、あるいは自治会活動はできても支会の活動はできないなどです。地域コミュニティの核としての自治会の推進に一層取り組まないと10年後には非常に厳しい状態になると危惧しています。

【委員】

パブリックコメントの意見にもありましたが、乳幼児期の相談体制について、相談しやすい環境が不足していると感じています。子育て広場などに相談員が常駐しているわけではないので、親子が来やすい遊び場などで相談できる環境があるといいと思います。心配だけど市役所まで行くのは…、という潜在的な相談をどこにつなげていいのかという声をよく聞きます。現場でも子ども家庭支援センターの相談員につなげることしかできないので、状況によってどこに相談すればいいか分かるような相談システムの見える化が必要だと感じています。子どもの発達に心配を抱えている親は孤独になりがちなので、相談機関の明確なルートがあることで、孤立させない体制が早急に必要だと思います。

また、移動手段がなく買い物や外出できない人が多くいることから、コミュニティバスの運用を切望します。青梅市にとどまらないコミュニティバスのネットワークができるといいと思います。今の若い世代は免許を持っていても、自家用車を持たない人や運転しない人が増えていると感じます。そういう方が出かける足にもなるので、色々な世代が使えるコミュニティバスの設置は望まれていると思います。

「2-3-1 子ども・若者の居場所づくり」にある「自己肯定感を育み、信頼関係を築くことができる第三の居場所」について、具体的なものがないと不安です。

農林業の推進について、今ある農地を残し、地産地消ができる青梅であってほしいと願っています。

【委員】

全体的に意見が反映され、まとまっていて読みやすいと感じました。

コミュニティバスもそうですが、駐車場がないことを痛感しています。働く場所や買い物場所など、駐車場の確保が経済に反映されてしまうと感じています。駐車場がある市外の商業施設に人が行くなど消費が外に流れてしまうと思います。民間でやるのは難しい部分もあるので、自治体として取り組んでいただきたいと思います。

【委員】

パブリックコメントで「あそぼうよ！青梅」の意味が分からないという意見がありましたので、「あそぼうよ！青梅」の基本姿勢を16ページに盛り込んでほしいと思います。

20ページの「2 まちづくりの基本方向」、26ページの「基本計画の見方」は、見やすくなったと思います。

27ページの「1 健康・医療・福祉」の10年後の目指す姿の内容がイメージしにくいと思います。最初の項目になるので、健康など具体的なキーワードを入れ、目指す姿のイメージを膨らましたほうが良いと思います。また、10年後の目指す姿が記載されている8つ基本方向のページに、イラストなどを入れると将来をイメージしやすくなると思います。

50ページの2-5-2と2-5-3は、タイトルと内容が入れ違っているのではと思います。内容の確認をしていただきたい。

71ページの4-3-4に「新たな公共交通の導入に向けた調査研究」とありますが、グリーンスローモビリティ等が地域の足や観光地の回遊性を高めるのに有効だと思うので、ぜひ進めていただきたいと思います。その際、ハード面だけではなく、運転手の確保などソフト面でも調査研究をしていただきたいと思います。青梅市に多くある福祉施設の車両運転経験者を起用することができる、より持続可能な体制になると思います。

79ページに「4-7-5自転車利用の促進」とありますが、表題の「4-7防犯交通安全の推進」に対する施策としては違和感がある。「自転車の安全利用の促進」としていただいたほうが良いと感じました。

115ページ「7-4-4ライフ・ワーク・バランスの推進」とあり、東京都のホームページもこの記載になっていますが、一般的には「ワーク・ライフ・バランス」のほうが聞きなじみがあるので見直してはどうかと思います。ただ、意図的なものがあればこのままでも問題ないと思います。

パブリックコメントを読んだ感想ですが、青梅市単体ではなく近隣で連携することで相乗効果も見込めると思うので、広域観光連携というキーワードも必要だと思いました。また、今の若

い世代は体験型の滞在ができれば近場であっても宿泊したいというニーズがあるようです。

農家民泊等の農業体験や林業体験のできる宿泊施設を拡充して、「日帰り観光」から「宿泊観光」への戦略転換を図れば経済的な波及効果も見込めると思います。

【委員】

バックカスティングの観点から工夫していただき、見やすくなったと思います。

会議録の8ページと資料の2ページで、フォアカスティングがコアカスティングになっているので、修正していただきたい。

パブリックコメントを見て思ったのは、無理してすべてにオリジナリティを出すのではなく、自然体な形でやっていけるものは大事にしていければと思います。

関連するSDGsは全部の施策に入れるのですか。(すべてに入れると回答あり)

90、91ページの「5-5 国内外における交流活動の推進」に国際交流の推進とあり、102、103ページ「6-5 青梅の魅力を収益につなげる観光の推進」に関連すると思う。観光のところが、世界の人たちを歓迎するという意気込みが弱いと思います。もう少し積極的に外国の人たちを歓迎したいという印象が伝わるよう工夫できないかと印象を持ちました。それが「5-5 国内外における交流活動の推進」にもつながると思います。

112、113ページ「7-3 人権擁護・平和の推進」で、人権擁護と平和が一緒の項目になっているのは変だと思います。本当は別ではないかと。関連するとしたら多文化共生社会の実現と平和のほうが関連深いと思います。117ページの「7-5-5 外国人の社会参画に向けた支援」に「審議会、委員会等へ外国人の参加を促進し、外国人の意見を街づくりに反映させる仕組みの構築」とありますが、ここが非常に大事なポイントになると思います。外国住民の方も一緒に色々なことに参加することが実現すると素晴らしいと思いました。

【委員】

「人権擁護と平和」の件は修正していいと思います。このボリュームをすべて見るのは時間がかかるので、次回の審議会までに各々レビューしていただき、五月雨式でも事務局に意見を出して、最終的に事務局でまとめていただければいいと思います。ただ、レビューの観点として、言葉づかい一つ一つを明確にしていくべきだと思います。例えば66ページに「4-1 適正な土地利用の推進」とありますが、“適正な”って何ですかとなる。ここで言うべきは、地域経済の発展と環境保全の両立を目指した土地利用だと思うので、そのように書いたほうがいいと思います。

また、今日明日ではなく2032年を見据え、どのような世界になっているか想像しながら考えていく必要があると思います。国や東京都の施策も参考にしながらフォローアップする必要があると思います。

まちの将来像である「美しい山と渓谷に抱かれ、東京に暮らす青梅」が、各まちづくりの方向に盛り込まれているか確認したい。例えば「6-5 青梅の魅力を収益につなげる観光の推進」

を「6-5 美しい山と溪谷を収益につなげる観光の推進」にするなどはっきり言ってもいいと思います。“東京に暮らす”については、「未来の東京」戦略と照らし合わせ、その方向と一致しているか検証する必要があると思っています。

子どもたちが夢を持てるのか、高齢者が安心して暮らせるのか、市外の人に移住したいと思えるのかといった観点で、そのような文言になっているかチェックが必要だと思っています。例えば69ページに「4-2-2 空き家対策の推進」とあり、施策としては必要ですが、字面で見るとこのまちは空き家があって人がいなくなっているのかとなってしまいます。そうではない表現ができるといいと思っています。また、「健康長寿日本一を目指す」がなくなっていますがなぜですか。高い目標を立てることによって施策のクオリティが高まると思います。

【委員】

以前、自然と産業と工芸をつなげて、遊び学べる科学館があるといいなと発言しましたが、項目の2、3、5に跨がるので取り込みづらいかんと思っています。しかし、自然は文化・芸術・産業の源になるので、そこを知っていくことが教育の根本にあるといいのではと思いました。例えば図書館や児童館が科学館的な役割を担ってもいいと思います。児童館は小さな子どもと親だけではなく、中高生や若者も安全に過ごせる居場所にもなると思います。

パブリックコメントで気になったのは、学校は明るくきれいなほうがいいという意見。子どもたちが過ごす環境に優先的に予算を割いてほしいと思いました。

若干具体性が弱く感じます。もう少しパブリックコメントや市民の意見を具体的に取り込めるといいと思いました。

【委員】

「2子育て・若者・教育」の項目の順番を変えられないかと思いました。青梅は子どもを中心にしながらつくっていくと感じており、とてもいい部分だと思うので、「2-3 子ども・若者支援の充実」を最初に持ってきて、2-4、2-5、2-1、2-2のように組み替えたほうが内容と一致すると思いました。また、多様性など様々に配慮した書きぶりになっているので、構成も結婚→出産→子育てという型にはめないほうがいいと思います。

117ページの「7-5-4 外国人の子どもに対する支援の充実」について、国籍は日本でも外国につながりにある子どもが、日本語がうまく使えないことで学びの権利が侵害されているという話もあります。外国のつながりのある子どもや外国につながる子どもという表現もあるので、もう少し広い表現にしたほうがいいと思います。

性的マイノリティに関して、理解という言葉が使われますが、理解するのは難しいので、それよりは人権の尊重のほうが包括的だと思います。

【副会長】

「あそぼうよ」をどのように伝えるかは重要だと思います。前文に相当するものがないので、これまでの意見などの思いを力強く伝える前文が必要だと思います。“あそぶ”ということをもっと掘り下げて、各項目がどのように関連しているか書き込んでいくと、「あそぼうよ！青

梅」を体現している計画だと感じていただけたと思います。

健康寿命日本一が消えた件については、高い目標を目指さないと、てっぺんには立てないので、そこに向かっていく力強さが必要だと思います。国や都の先を目指しているということを出したいと思いました。

稼ぐ力と生きる力を両立するのが、健康経営という考え方になります。健康と経営を両立させるということ、企業でも地域でも考える必要があります。目指せ健康寿命日本一、健康経営日本一のまちと言い切ってはいかがでしょうか。健康経営を打ち出す場合、働く人の健康づくりがないので、「1-1生涯にわたる健康づくりの推進」で吸収する必要があると思います。健康経営または働く人というキーワードを入れてほしいです。

生活することは生きること、食えること、動くこと、人と関わること、働くことなど様々な分野が生活することに関係してくると思います。なので生活という言葉、もしくは生きると言い直すことができると、青梅に来ていきいきと自分らしく生きることができるのではないかなと思いました。

「1-1-3主体的な健康づくりの促進」は少し違うと思います。健康は個人の努力だけではなく、環境が支えていくという考え方があり、地域環境の支援が絶対に必要になると思います。元気なお年寄りや子どもが闊歩しているまちだといいです。

小菅村の例を参考に、点在している施設や空き家を宿泊施設として活用することもできると思います。市内で完結せずに広域の観光連携や医療に関しても広域の連携が必要になってくると思います。

作業時間が足りないので、各パーツを各委員で分担してレビューワークが必要なのではと思います。

【会長】

2つの観点から言葉の整理、定義をしっかりとすることが必要だと思っています。1つは、この審議会で取り上げているキーワードとなる言葉の説明をキチンとしていただきたい。パブリックコメントを見ると「あそぼうよ！青梅」が誤解されている部分があると思います。また、21ページにある共通する視点が漠然とした説明になっており、各施策の共通の視点が埋まっていない箇所が多々あります。もう少し具体的に説明する、あるいは事例を挙げると、私たちが狙っているキーワードのイメージがつかめるのではと思います。

もう1つは、用語説明について、未来に向けて市民の方に新しいことを理解するための言葉を知ってもらいたいと思っています。難しい言葉であってもキチンと理解してもらえそうなページ仕立てにしてもらいたいです。例えば教育にあるメタバース授業やSTEAM教育など、分かる人には分かるが、こういった言葉が何を指していて何をするのかなど、色々なところで説明をしてもらいたいと思っています。用語集を後ろにしまうと、読んでいるときに何なんだろうとなってしまうので、新しい言葉や外国語などは丁寧に説明していただきたい。

また、空欄になっている共通する視点や関連する個別計画は、どのような扱いになるか気に

なります。非常に濃い内容になっているので、どのように計画に落とし込んでいくのか、計画がないということになると本当に実現されるのかという話になってしまうので、入れる必要があると思います。もし入れないのであれば、どのように向かっていくのか検討する必要があると思います。

学校教育の観点でいうと、あらゆる分野が子どもたちの関心事になるので、この計画を分かりやすく子どもたちに伝えるようなパンフレットや資料を提供してほしいと思います。学校バージョン、先生バージョン、子どもたちバージョンに落とし込むような取り組みをしていただければと思います。誰もが知っている計画となるようにしていただきたい。

47ページに「生きる力」とありますが、計画の中に子どもの姿が出てほしいなと思います。個性と特技を持った子どもを育てるや国際性豊かななど、子どもの姿が出てくる表現があるとイメージが見えてくると思います。

コミュニティスクールやチーム学校等を進めていくためには、コーディネーターとなる人材の育成や学校配置が必要になります。地域の方が学校とどのように関わるかということが大事になるので、学校を支援するコーディネーターの育成というようなことを記載していただくと具体的なものにつながると思います。

私のほうからは以上になりますが、言い足りない部分や補足事項などありましたら、ご発言いただきたいと思います。

【委員】

小学生の資料を見ていて、幸せという言葉が出てくることにハッとさせられました。子どもたちも明るい未来を見ているので、10年後のもっと先を見据えていただければと思いました。

【副会長】

健康は目的ではなく手段。ウェルビーイングという言葉があり、健康や幸福など、皆が漠然と持っている価値観の真ん中にあるのかなと思いました。

このドキュメントは、市政運営の指針ですが、市ができないことは民間に託すということで、財源も含め民間の力を担保するような記載になっているといいなと思いました。絶対実現してやるというようなまとめ方にしていただけるといいと思います。

【委員】

「3 自然・環境・エネルギー」について、美しい山と渓谷をタイトルにして、残りはゼロカーボンシティを目指すための項目という構成してはどうかと思い、資料を提出しました。

気になっているのは、現状に数値的なものを入れなくていいのかという部分です。ゼロカーボンシティの場合、現状の数値はこうで、何年後にはこうします、としないと具体性がなくなってしまうのですが、ここだけ数値が入って、他の項目にないとバランス的にどうなのかなと思うので、どのように調整すればいいか気になっています。

【会長】

それではよろしければ協議事項を終了させていただければと思います。事務局におかれまし

ては、各委員からいただいた意見を素案の改定案に盛り込んでいただきたいと思います。

5 その他

【会長】

次回開催等について、事務局からお願いします。

【事務局】

次回第10回青梅市総合長期計画審議会につきまして、9月30日金曜日午後1時から、議会棟3階大会議室にて開催させていただきたいと存じます。

【会長】

事務局からの説明に対し、ご意見、ご質問はありますか。

(意見・質問なし)

それでは、副会長最後よろしいですか。

【副会長】

先ほどお話をさせていただいたので大丈夫です。ただ、宿題事項はどうすればいいか、物足りないと感じるところも皆さんあると思うのですが。

【会長】

全体に課すというより、希望のある方は提出していただければと思います。

以上で本日の議事について終了いたします。

6 閉会

午後4時05分閉会